五行（ごぎょう）の意

「互いに影響を与え合い、その生滅盛衰によって天地万物が変化し、循環する。」

五行	木	火	土	金	水
五色	緑（青）	紅	黄	白	玄（黒・紫）
五時	春	夏	土用	秋	冬
五常	礼	仁	義	智	信
五方	東	南	中	西	北
五星	木星	火星	土星	金星	水星
五曜	木曜日	火曜日	土曜日	金曜日	水曜日
五音	角（ミ）（かく）	徵（ソ）（ち）	宮（ド）（きゅう）	商（レ）（しょう）	羽（ラ）（う）
五指	薬指	中指	人差指	親指	小指
五官	目	舌	口	鼻	耳
五味	酸	苦	甘	辛	鹹（塩辛さ）（かん）
五獣	青龍（せいりゅう）	朱雀（すざく）	黄麟（きりん）	白虎（びゃっこ）	玄武（げんぶ）
旧暦	一～三月	四～六月		七～九月	十～十二月

「ハシ」について

ハシは、食物と人間の口の間を渡すもの、つまり語源は間（ハシ）にある。

一般的には、次の五つのことが言われている。

① ハシは「橋」である。「食と口との橋の意」であり、植物と人間の口を結ぶかけ橋である。橋はかけ渡すもの、仲介・媒介するものである。

② ハシは「間（はし）」である。「間（はし）に挟むの意」といわれ、二本の箸の間に、食物をはさみ、食物と人間の間を結ぶもの。また神と人、人と人との間を結ぶもの。

③ ハシは「端」である。「はしとは端なり」といわれ、竹または木の中程を折り曲げて、その端と端を向かい合わせて食を取ったことによる。

④ ハシは「嘴（はし）」である。「箸は嘴なり」といわれ、箸を持った形姿は、鳥の嘴で物をついばむのと同じ姿である。

⑤ ハシは「柱」である。箸は、これを使う神や人の霊魂の宿る依代（よりしろ）から「箸は柱なり」と。まさに神霊や祖霊が宿る小さな柱であり、小さな神木である。

このように、箸には神や人の魂が宿るとの信仰から、「野外で使った箸は折って捨てないと、キツネや魔物につかれる」「箸を折ったり踏んだりすると財産をなくす」という話や風習が残っている。また、日本の箸は、神に食べ物をささげる神事に登場したことから古来、神と人を結ぶ物といわれから、神社はさまざまな祝い箸・祈り箸・厄除け箸などを授与しているのである。